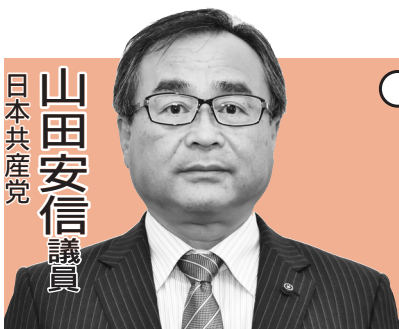


○ コロナの影響を考慮した指定管理や産業団地などの既存事業の見直しについて

そのほかの質問

- ・安倍政治の行き詰まりと新しい政治への転換について
- ・コロナ対策の検証と今後の課題について

山田安信
議員
日本共産党



問 ①勝山ニユーホテルの市負担総額を問う。

コロナ禍の影響3か月分で3150万円もの追加支払を今後も継続するのか。一旦休業や廃止等を検討しないのか。

②水芭蕉の改修工事2億円で入館者と売上金の増加予測、湯つたり勝山の閉鎖で水芭蕉利用者増の予測、指定管理費を5年間で7000万円も増額する根拠を問う。契約変更でなく再募集すべきだし、市民福祉施設に戻す等、抜本的に再検討すべき。

③ゆめおーれは今年4月から指定管理にしたために職員を別業務に派遣できず、経費削減もできない等の矛盾が噴出しており、再検討が必要だ。

答 ①平成12年度から令和元年度までに勝山市が支出した金額は、約8億6890万円。交付金の追加支出は、議会とも相談して総合的に判断していく。今すぐに休業や廃止を検討するのではなく、観光産業の核として最大限の努力をしながら運営を続けつつ、状況に応じ

てあらゆる方策を検討していく。

②5年間で入浴者数が2万5000人、食堂利用者が3万1500人、宿泊稼働率が15%上昇し、最終年度では約2400万円の増収、約1100万円の利益と予想した。湯つたり勝山の閉鎖で、水芭蕉の利用者数が最大で1万5000人程度増加すると考える。コロナ禍以降も含め年間利用者数を12万人程度と見込み、年額1400万円の指定管理料増額の積算となった。契約変更については、

現契約者との協議を優先することが最も合理的だと判断した。入浴施設は、廃止ではなく様々な努力をしながら継続すべき施設であると考え。

③ゆめおーれ勝山を「織維のまち勝山」のシンボルとして位置付け、産業や観光と文化の両面からより充実した館の運営を行うためには、指定管理制度は有効なものであり、現時点では運営方法を再検討することは考えていない。

○ コロナ禍における市内移住施策について
○ プログラミング教育とまちおこしについて

そのほかの質問

- ・コロナ禍における地域行事等の開催について
- ・子育て環境について

竹内和順
議員
新風会・公明



問 全国知事会の全体会で、「コロナを乗り越える日本再生宣言」を採択し、一極集中を是正して地方分散を推進し、新しい時代を切り開いていこうと訴えた。

このように、都市部から地方への移住に関心が高まる中、勝山市内移住策について市の見解を問う。

答 新型コロナウイルスの影響で、都市部に住み続けることへの不安から、勝山市への移住相談も徐々に増加している。

この流れを受けて、本年度、移住支援に係るこれまでの補助制度を大幅に見直し、移住者に対する財政面での支援を強化した。今後、これら補助制度の活用状況や効果の検証を行いながら、短期的なスパンで随時、見直していく。

また、1万人を超える全国の移住希望者が利用する移住者スカウトサイト「スマウト」を活用して、勝山の魅力的な自然環境等を体験するプログラムを提案するなど、「勝山ファン」を創出したい。

問 本年度から小学校でプログラミング教育が必修化され、学校現場そして先生方には大きな影響を及ぼしていると想像される。教育現場のプログラミング教育の現況を伺う。

また、幸いにも市内にプログラミング教育の専門家がおられる。まちおこしに繋がらないか、市の見解を問う。

答 各学校では、文部科学省等が提供する研修用の資料や実践例を参考に、学習指導要領に実施が例示されている理科や算数等の教科での授業で活用する準備を進めている。今後、勝山市教育研究会と連携した研修会の開催等、各校の取組を積極的に支援していきたい。

また、勝山市で開催されていた「歯磨きロボコン」など、プログラミング技術やICTを用いて、学校から地域へと活動の範囲を広げ、まちの活性化につながるイベント等への発展も期待される。そうした視点も持って臨んでいきたい。

また、幸いにも市内にプログラミング教育の専門家がおられる。まちおこしに繋がらないか、市の見解を問う。